《担当者名》 大須田祐亮 osuda@hoku-iryo-u.ac.jp 小島悟 鈴木英樹 山口明彦 吉田晋 高橋尚明 武田涼子 佐々木祐二 長谷川純子 澤田篤史 岩部達也 山根裕司 井上恒志郎 佐藤一成 多田菊代 中村宅雄 只石朋仁 阿部隆宏 谷口翔平 用田歩

【概要】

1年前期で学んだ理学療法概論の内容を基礎とした演習科目である。
理学療法および理学療法士の「過去-現在-未来」について、個人またはグループで行う様々な演習を通じて考え、今後目指すべき理学療法士像を明確にする。

【学修目標】

< 1. 一般目標 >

理学療法および理学療法士が将来にわたって社会的に必要な存在であり続けられるように、以下の点について理解することができる。

1. これまでに理学療法および理学療法士はどのような社会的役割を果たしてきたのか
2. 現在、理学療法および理学療法士が解決すべき社会的課題にはどのようなものがあるのか
3. 将来的に理学療法および理学療法士に新たに求められる社会的役割にはどのようなものが予測されるか

< 2. 行動目標 >

1. 社会人としての理学療法士に求められる身だしなみや接遇、振る舞いとはどのようなものが説明できる。
2. 理学療法および理学療法士が持つ多種多様な職域・分野について説明できる。
3. 現在の社会における理学療法士の位置づけについて、関連する法律・制度などの面から説明できる。
4. 理学療法および理学療法士が持つ将来への可能性について自ら考え、説明できる。
5. 理学療法士の求められる人間性やコアコンピテンシーとはどのようなものか自ら考え、説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 3	社会人としての理学療法士とは	社会人として理学療法士に求められる身だしなみや接遇、振る舞いなどが何故存在するのか考える。さらに臨床実習の場面でそれらを実践できるように模擬練習を実施する。	科目担当者全員
4) 6	理学療法の多種多様な分野・職域を知る	多種多様な理学療法士の分野・職域を知るために、理学療法学科教員へのインタビューを実施する。また、その内容について履修生同士での共有を行って知見をさらに広げる。	科目担当者全員
7) 9	現在の社会における理学療法士の位置づけを考える	理学療法士が現在置かれている社会的な位置づけについて、関連する法律・制度などをもとに理解する。競合する職業との違いについても合わせて理解する。	科目担当者全員
10) 12	理学療法士が持つ将来への可能性を探る	これまでに理学療法士に求められてきた役割や職域を踏まえて、将来的に理学療法士が関わることが出来る可能性がある新たな分野や職域について、どのようなものがあるか考える。	科目担当者全員
13) 15	理学療法士に求められる人間性・コアコンピテンシーとは何か	理学療法士に求められる人間性・コアコンピテンシーとはどのようなものかについて、他者とのディスカッションを通じて理解を深める。	科目担当者全員

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

講義ごと、あるいはテーマごとに設定される課題・提出物により評価を行う。（100%）

定期試験は行わない。

【教科書】

浅香 満 責任編集 「理学療法概論」 中山書店

【備考】

本科目は個人またはグループによる演習を中心に実施する。

特にグループで行う演習では、ディスカッションが活発になるよう参加者の積極的な発言を期待する。

また2年次以降の科目で求められるグループ演習の充実に繋がるよう、ディスカッションの進め方については様々な形式を設定する。

【学修の準備】

理学療法概論の講義内容を踏まえ、各テーマの講義内容について予習すること（80分）。

復習は、講義内で実施した課題をまとめ直したり、指示のあった提出物の作成を通じて学修を深めること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP2）理学療法に必要な基礎的専門知識と技術を習得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。

【実務経験】

大須田祐亮 小島悟 鈴木英樹 吉田晋 高橋尚明 武田涼子 佐々木祐二 長谷川純子 澤田篤史 岩部達也 山根裕司 佐藤一成 多田菊代 中村宅雄 只石朋仁 阿部隆宏 谷口翔平 用田歩（すべて理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関、福祉機関などでの臨床経験を活かした教育を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している